

2014年6月22日 主日礼拝

説教 さいわいな人

マタイの福音書5章1-12節

【主イエスの祝福】

マタイ5～7章は、山上の説教。以前は山上の「垂訓」と呼ばれていたが、今はあまり使われない。なぜならここは道徳ではなく祝福だからです。ここには、主イエスの祝福があります。主イエスが、ご自分とともに生きる者を祝福しているのです。特に今朝のところは、八福、八つの祝福、と呼ばれます。「心の貧しい者は幸いです」(3)。幸いになれる、とか幸いになりなさい、ではない。現にあなたがたは幸いなのだと主イエスはおっしゃっています。山の上の、青い、抜けるような空の下で、主イエスの喜びもまた、突き抜けるよう。主イエスは私たちの幸いと、ご自分が私たちを喜んでいることを、宣言してくださいました。

【八つの幸い？】

八つの幸いと言うけれども、「これは、それぞれが切り離されて存在する八つのばらばらの幸いではない。ひとつの『幸い』の八つの側面」(牧羊者)です。実は幸いは、ひとつだと言うのです。ひとつだけれども、実に豊かに広がる、その幸いとは？それは、主イエスとともにいること。主イエスのそばにいます。

【天才バカボン？！○×※】

福音は天才バカボン、「それでいいのだ」。福音とは、神さまが、「あなたは、それでいいのだ」

と、おっしゃってくださること。罪ある、愛の足りない私たち。もちろん、私たちは、自分でも、これでいいのだとは、思っていない。ところが、神さまは、意外なおっしゃる。「あなたは、罪人だ。それでいいのだ」と。これはもちろん、神さまが罪をどうでもよいと思っていられるということではありません。でも私たちは、「あなたは、それではよくない」と神さまから言われてもどうすることもできない。自分を罪から自由にすることができない。自分の犯した罪をつぐなうこともできない。

だから、神さまが「それでいいのだ」とおっしゃるのは、罪とその結果のすべてを、ご自分が引き受けてくださるからです。御子イエス・キリストの十字架で、罪のすべての始末をつけてくださる、そのお覚悟があつての「それでいいのだ」であることを忘れてはならないのです。

【天の御国】

そして、御子イエスは、来るべき十字架を覚悟の上で、「あなたがたは幸いだ」とおっしゃる。私とともにいる、あなたがたはみな幸いだとおっしゃる。「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから」(3)の「天の御国」とは死んでから行く、天国のことではありません。他の福音書では「神の国」、神の支配。今、ここにある神の支配が、心の貧しい人を、すでに捕らえている。だからすでに幸いだ、とそういう。将来、天国に行って幸せになるでしょう、ではありません。

ん。いま、すでに私たちは、幸い。主イエスとともにいる者は、すでに幸いの中にいます。

【心の貧しい人】

ルターの地上での最後の言葉は、「われわれは物乞いに過ぎない。それはほんとうだ」。ルターは自分の生涯を惨めに思って振り返っていたのではありません。マタイ5:3を思って幸いを喜んでいたのです。「心の貧しい者」の「貧しい」は、徹底的な貧しさ、今だれかに、お金や物を貰わなければ、今日を生き延びることができない、そういう貧しさ。心の貧しい者とは、今、神さまのあわれみをいただかなければ、生きていくことが出来ない者。自分で、自分を生かすなにもも持たない者。私たちも物乞いです。神さまのあわれみなしには、罪の中で、滅びていくしかない物乞い。その私たちを、神さまが惜しんでくださった。そして、与えてくださった。実に豊かに。私たちが期待するよりもずっとすばらしいものを与えてくださった。いのちを、愛を、そしてなにより御子イエス・キリストを与えてくださったのです。

だから 心の貧しい者は幸いです。自分が、神さまからいただくのではなくては、生きていけないものであることを知っている者はさいわいなのです。なぜなら、その人は神さまから豊かに与えていただけるから。与えずにはおれない神さまに心を開き、手を開くからです。私たちは豊かに与えられた物乞い。そんな主イエスのそばを離れないお互いであることを喜びましょう。